



算数、生活科、総合的な学習の時間の研究授業を通して「児童一人ひとりの学びの過程を把握し、わかる授業の実践」ができる教師の指導力向上を図ることに取り組んだ。

②認め合い、支え合い、励まし合える関係づくりの実践に係わる活動

「みんな仲よし」の交流活動（「なかよしジャンボリー」）は、学校・家庭・地域の三者でつくられる行事で、子どもたちはその中で縦割り班ごとにお店の企画・運営、商品作りや買い物体験等を行っている。この活動を通して児童は保護者、地域の人、高齢者、障害のある人などとふれ合うことにより、思いやりの気持ちを持ったり、楽しい時間を共有するための心遣いを学んだりしている。

③保護者、地域との関係づくりの実践に係わる活動

- ・同和問題をはじめ様々な人権問題に対する認識の研修の実施（被差別体験者との交流等）
- ・保護者啓発の実践（家庭訪問、学年だより、人権作文、授業参観、学年部会・学級懇談会、教育相談、よい子の賞）

① の写真（キャプション）



② の写真（キャプション）



③ の写真（キャプション）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

なし
----

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「人権教育」を全教育活動の核に据え、学級経営を基盤に各教科や領域との関連を図りながら豊かな人間性や自尊感情の育成、望ましい人間関係を醸成しようとする態度を育てるよう、教育課程を編成している。

具体的には、授業の中で一人ひとりの実態を把握するよう座席表を活用したり机間指導を通して学習状況を把握し、必要に応じた支援をして学習意欲が持続できるようにしている。

また、学校・家庭・地域で行う行事「なかよしジャンボリー」では生活科、総合的な学習の時間、児童会行事と関連させながら編成し、行事終了後は振り返りを行い、次年度の計画に生かしている。

さらに同和問題をはじめ様々な人権問題に対する認識の研修について、積極的に進め、昨年度からは「被差別体験保護者との懇談会」も新たに加えた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初、職員会議での校長から本校がユネスコスクールに加盟していることを説明し、全職員共通理解の基、各校務分掌、各学年経営等にその精神を生かしている。

また、校内現職教育計画に位置づけられている研究授業の際は指導案に座席表を載せ、一人ひとりの実態把握に努めている。

「なかよしジャンボリー」においては行事の1ヶ月以上前から準備を進め、全校体制で取り組む体制をとっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年に1回の学校評価では、職員評価と保護者評価でユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動評価を行っている。

2年前の職員評価では「ユネスコスクールとして本校で取り組んでいるものが見えてこない。」という意見が見られた。そこで、校長が「本校で人権教育を基盤として教育活動を進めていること＝ユネスコスクール（人権、民主主義の理解と促進）の取り組みであること」を全職員に確認した。

それにより、本校で今まで取り組んでいることをそのまま続けていくという共通認識を持つことが出来た。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校便り、PTAの会議、地域の会議等で、ESD の推進拠点としての活動成果の発信を行っている。

発信により得られた効果としては、今のところ特に目立ったものはない。今後、学校のホームページにも掲載し、より広く情報を発信していけたらと考えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「なかよしジャンボリー」では地域回覧等を通じて地域住民にも伝え、参加を呼びかけている。また、自治会長、民生委員、育成会長、交通指導員をはじめ各種団体長にも開催案内を送付し、多くの来賓を招いての一大行事となっている。

なお、本行事はPTA行事でもあり、さらに公民館との共同事業でもある。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成については現在までのところ、行ってはいない。

今後、検討し、必要性を感じた場合、行っていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

教職員の児童を見る眼に変化が現れた。一人ひとりの実態を十分に把握し、それを指導や支援に生かしていくようになった。つまり「把握と関係づくり」を重視し、教師自らが日常の教育活動を見直し、一人ひとりの児童を生かす教育の実践に取り組むようになった。

また、保護者・地域との関係づくりでは、本校の人権教育の取り組みや具体的な児童の姿を発信してきた結果、保護者の協力を以前にも増して得られるようになってきた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校がユネスコスクールに加盟・承認を得てから5年が経つ。その間一貫してユネスコスクールのテーマの一つである「人権、民主主義の理解と促進」を踏まえ、当校の学校課題解決を目指して教育活動を進めてきた。つまり、人権教育を全教育活動の基盤に据え、児童との関わりの中で教師が「把握と関係づくり」を重視し、教師自らが日常の教育活動を見直し、一人ひとりの児童を生かす教育の実践に取り組んできた。

平成30年度もこの考えの基、教育活動を進めていきたい。つまり、以下の3点について継承しつつ、今年の実践の振り返りから、さらに充実した実践になるよう、教職員一丸となって取り組んでいきたい。

- ① 児童一人ひとりのつまずきや悩みを把握し、わかる授業の実践、
- ② 認め合い、支え合い、励まし合える関係づくりの実践
- ③ 保護者、地域との関係づくりの実践